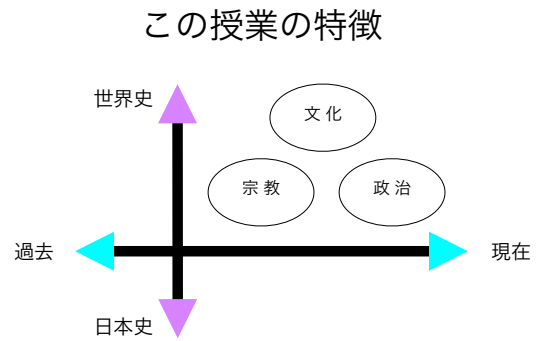


ポイントの再確認

授業の前半と後半の関係



授業の構成

1	導入	
2-8	日本宗教の形成と展開	(現代) 宗教の風景 (古代) 神々の世界 (古代) 仏教以前、仏教伝来 (中世) 平安時代の宗教 (中世) 鎌倉仏教 (中世) 禅とその文化 (近世) 近世の宗教
9-14	近現代における日本宗教	宗教を規定する政治力学 近代日本における政教分離の形成と構造 一神教と多神教をめぐるディスコースとリアルポリシーク 宗教の多元化と多元主義 信仰の土着化とナショナリズムの相関関係 現代社会における宗教の役割

宗教を規定する政治力学

国家・科学との関係の中で

Overview

世俗化、「宗教」概念の歴史の変遷
 近代日本における宗教と科学
 仏教と科学
 進化論の受容から見える科学と宗教の共生関係
 まとめ
 [補足] 近代から現代・近未来へ

世俗化

世俗化 (secularization) とは何か
 西洋における世俗化：キリスト教の影響力の減退
 日本における世俗化
 世界は世俗化しているのか
 世俗主義 (secularism) ・政教分離 (separation of church and state)
 私的領域と公的領域の分離

「宗教」概念の歴史的変遷

宗教 (religio) と迷信 (superstitio)

ローマ的秩序に適合するものが religio とされた。キリスト教はその初期において「迷信」とされた。

【比較】近代日本、現代中国における「宗教」

キリスト教がローマ帝国の「宗教」となる

西洋ではキリスト教が「宗教」の範型

キリスト教以外の宗教は「迷信」

近代日本における宗教と科学

religion の翻訳語としての「宗教」

キリスト教（特にプロテスタント）が「宗教」概念のモデルとなる。

科学と宗教

「迷信」（民俗的なものを含む）を駆逐するためのパートナー

仏教と科学

キリスト教に対する「防波堤」としての仏教

日本における進化論論争

仏教からのキリスト教（創造論）批判

ギュリック (John Thomas Gulik) による進化論講義 (同志社、1878-79年)



科学のおよび神話的世界観への適応

仏教は、内部の神話的世界観を批判的に対象化できたか？

外部の神話的世界観（皇国の世界観、天皇神話）を対象化し得たのか？

科学と宗教の自己批判・相互批判なき平行関係がもたらしたものの

進化論の受容から見える 科学と宗教の共生関係

生物進化論の革新性

皇国史観（天皇の神的ルーツを語る）に対する挑戦

アメリカにおける進化論と原理主義の関係とのアナロジー

土台としての聖書および記紀神話

【参考】小原・中田・手島『原理主義から世界の動きが見える』

(PHP新書、2006年)

科学と宗教は棲み分けながらも、国体イデオロギーを共に補完した。

まとめ

「宗教」を定義する主体は誰なのか？

宗教が科学に対し示すべき価値や規範は何か？

生命の尊厳、平和構築への積極的提言

科学的知見（外部コンテキスト）と神話性（内部コンテキスト）に対する批判的認識

公的領域と私的領域をどのように関係づけるべきなのか？

単純な二分法的区分がもたらした負の側面

近代から現代・近未来へ

科学の進歩は、日常（此岸）と非日常（彼岸）の区別に
どのような変化をもたらすのか？

攻殻機動隊 Ghost in the Shell (1995)

マトリックス Matrix (1999)



Matrix



リアル（現実）とバーチャル（仮想）の緊張関係

祭り、建築、音楽、文学等

vertical な超越

日常世界（生者）と超越的世界（死者、神々）の交流

人間の「こころ」の深層（たましい）との交流

horizontal な超越（科学技術により拡大）

情報化の彼方に

産業化・情報化の中で進行する身体感覚の希薄化。

太古の時代からバーチャルな存在であるはずの人間が、技術革新の中で、現実と仮想を行き来するための平衡感覚を失い始めている。